

皮膚科

専門領域：皮膚科

1. 研修目標

3年間の研修を通じて、皮膚科全般、皮膚外科および皮膚病理について研修させ、オールラウンドな皮膚科専門医を育成する。研修1年目は、入院患者を中心に皮膚科専門医としての基本的な診療技術、検査手技、治療法を習得することを主眼とする。また、皮膚科病理組織カンファレンスに参加し病理所見をとることができるようにする。研修2年目はさらに発展させるとともに、外来診療も行う。さらに、皮膚外科技術の習得を主眼として積極的に手術を行い、単独で簡単な皮膚科手術が行えるようにする。病理診断に関してはさらに発展させ所見から病理診断ができるようにする。研修3年目からは自らの診療レベルを検証させ、過去2年間の研修不足領域を補うとともに、膠原病、乾癬、腫瘍、アトピー、美容などの専門外来に参加してもらい、将来どの皮膚科分野のエキスパートになるかの動機づけを行う。また、皮膚科専門医としての受験資格を取得し、できるだけ早期に専門医を取得させる。

2. 研修計画

1) 皮膚科臨床診断

●研修1、2、3年目

外来、病棟において専門医の指導のもと臨床所見をとり、記載、診断する。

臨床カンファレンス（毎週木曜日）において臨床所見をとり、記載、診断する。

2) 皮膚科病理診断

●研修1、2年目

病理カンファレンス（毎週木曜日）は、皮膚病理テキストに沿って出題されるが、研修医はこれら標本の病理所見をとり、診断する。また、病理診断医の指導のもと担当患者の病理所見をとり、診断する。

●研修3年目

病理カンファレンス（毎週木曜日）は、病理所見をとり、診断する。病院内外からのすべての病理組織をみて病理診断力をさらに向上させる。

3) 皮膚科検査手技の習熟

●研修1年目

皮膚生検術、パッチテスト、光線過敏検査、真菌検査、アレルギー検査（皮内テスト、プリックテストなど）の基本的な手技

●研修2年目

デルマトスコープ、皮膚免疫組織検査、水疱症診断のための蛍光抗体法、ELISA法、エコー検査などの応用的手技

●研修3年目

水疱症診断のためのwestern blot法、電子顕微鏡検査、細菌感染症診断のためのPCR法などの、臨床研究をも念頭に置いた発展的応用的手技

4) 皮膚科治療技術

●研修1年目

抗ヒスタミン剤、ステロイド外用薬などの皮膚科頻用薬剤の使い分け、紫外線療法、凍結療法、簡単な良性腫瘍切除術、陥入爪治療術などの基本的手技

●研修2年目

熱傷などにたいする輸液療法および植皮術、局所皮弁術、レーザー治療、ケミカルピーリング法、じょくそうなどの慢性潰瘍に対する治療などの基本手技

●研修3年目

悪性腫瘍に対する拡大切除、植皮術、リンパ節郭清、化学療法、難治性水疱症疾患に対する血漿交換療法などの応用的手技

5) 学会活動における発表力および文献評価能力の育成

●研修1年目

医局内カンファレンスおよび地方学会での発表

●研修2年目

地方学会および全国学会での発表と論文発表（最低1編）

●研修3年目

地方学会、全国学会および国際学会での発表と論文発表（最低2編）

3. 皮膚科専門医の取得

日本皮膚科学会入会後、学会の認定施設にて5年間の研修後、皮膚科専門医を取得

連絡先／担当者 高橋 英俊 ht@asahikawa-med.ac.jp 電話 0166-68-2523
--